

地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成

～川下中学校区「あったかネット」の取組～

【岩国市 川下中学校区】

地域の概要

川下中学校区は岩国市のほぼ中心部に位置し、川下小学校と愛宕小学校の二つの小学校区からなります。米軍岩国基地に隣接しており、地域や学校、生徒の雰囲気も国際色豊かです。商業・住宅地域や造成された団地及び干拓地に広がるハス田の農業地域からなっています。

人口	21,364人	
世帯数	10,379世帯	
対象校及び児童生徒数	川下中学校	506人
	川下小学校	431人
	愛宕小学校	569人

組織の内容

川下中学校区地域協育ネットは、平成25年度より川下中学校学校運営協議会を母体として立ち上げ、同協議会を中心に運営しています。また、「学力向上部会」、「心の教育部会」、「体力向上部会」の三つの部会を設け、機能的な運営を図っています。

○ 協議会委員の構成

互選により学識経験者を会長とし、会長の指名により地域関係者代表を副会長に選出し、各地区社会福祉協議会関係者や地区主任児童委員などの地域関係者8人、育友会関係者1人、各小・中学校長や各プロジェクトの担当者などの学校関係者14人、「地域協育ネット」コーディネーター1人の計26人で構成しています。また、オブザーバーとして岩国市教育委員会からも参加していただいています。

○ 協議会

協議会設置要綱により、4月に第1回協議会（会長・副会長の選出、今年度の計画）、12月に第2回協議会（取組の反省）、2月に第3回協議会（次年度へ向けた方向付け）を川下中学校の学校運営協議会の開催にあわせて実施しています。

○ 3校連携研修会

8月に川下中・川下小・愛宕小の全教職員や協議会委員が一堂に会し、めざす子ども像や、「地域協育ネット」の取組を再確認し、より教育効果の高い実践となるよう共通理解を図っています。また、全体会の後に地域協育ネット部会を設けて、意見交換を行っています。



3校連携研修会（部会）

特色・重点的な取組

推進協力校として3年目となる今年度は、前年度から継続・発展させた「地域マップづくり」「校区内クリーン大作戦」「学習支援ボランティア・川下塾」「防災訓練」に「地域あいさつ運動」を加えた五つのプロジェクトに取り組みました。また、協議会としてよりよい組織の在り方を検討するとともに、児童生徒や教職員の意識の向上やプロジェクトの地域への周知を図るため、川下中学校区地域協育ネットの通称「あったかネット」やイメージキャラクター「ほっとちゃん」を選定し、のぼり旗や卓上旗の製作などを行い、PR活動にも力を入れました。

主な活動の紹介

○ 川下中学校区地域協育ネットの通称・イメージキャラクターの選定

- ・協議会より提案し、児童生徒や保護者より公募
- ・通称「あったかネット」の決定
川下中学校区の二つの地域である愛宕地区の「あ・た」と、川下地区の「か」から文字を取り、地域と子どもたちの温かいつながりを願い決定
- ・イメージキャラクター「ほっとちゃん」の選定
四つの秘密 ① 額の△は川下地区の三角州
② 胸のハートは愛宕地区の愛（ハート）
③ 髪型はハス田に群れる白鷺のつばさ
④ 赤色の目は岩国が保護する白蛇
- ・デザインや愛称を考案した児童生徒を表彰
- ・のぼり旗や卓上旗などの製作と活用
- ・「ハチマキほっとちゃん」「歌うほっとちゃん」「お掃除ほっとちゃん」など様々なバリエーションを考案
- ・「ほっとちゃん」の着ぐるみを製作



ほっとちゃん



のぼり旗による活動PR



給水体験

○ 防災訓練「煙霧・炊き出し体験」

- ・昨年度開催した「津波避難訓練」に続く2回目の防災訓練
- ・川下中、川下小4年生、育友会、地域住民が参加
- ・岩国市危機管理課、岩国市水道局、岩国地区消防組合、川下地区連合自治会、川下地区社会福祉協議会、愛宕地区児童民生委員の協力により、避難訓練後に給水・煙霧・炊き出しを体験

成果と課題

各プロジェクト実施後の児童生徒の感想に、「保護者や地域のボランティアの方々が一緒に考えてくださるのがうれしかった。」「自分が住んでいる地域にもいっぱい魅力があった。」「いつも見守ってくれている地域の方に感謝したい。」など、地域とのつながりを意識したものが多くありました。今年度、通称名「あったかネット」やイメージキャラクター「ほっとちゃん」を考案し、積極的に活動のPRを行ったことにより、子どもたちは活動に親しみをもち、保護者や地域の方々の関心も高まったことで、小学校での活動が活発になりました。また、中学校も生徒を中心に、地域で行われる河川清掃や敬老会の会場づくりなどのボランティア活動に積極的に参加しました。

このような「あったかネット」の取組は、子どもたちと地域とのつながりを生み、子どもたちの自己有用感と自己指導能力を高めることにつながると考えます。

今後は、各プロジェクトの充実とともに、地域の応援団を増やし、より地域に愛される学校づくり、地域に愛される子どもたちの育成を図りたいと考えています。

今後の取組

子どもたちが主体的に取り組み、より深い学びと充実感を得るために、関係者の打合せを行う時間の確保や負担感に配慮した機能的な組織づくりを行いたいと考えています。

また、より開かれた学校づくりをめざすとともに、地域に貢献できる新たな活動の検討や、学校・家庭・地域とのよりよい連携の在り方を模索していきたいと思えます。